

第1回傷害予防教育セミナー開催のお知らせ ー第2報ー

わが国では、1960年以降、0歳を除いた小児の死因の第1位は「不慮の事故」となっています。最近では、事故死が死因の第2位になっている年齢層もありますが、子どもの健康問題として「不慮の事故」が大きな位置を占めていることは変わりありません。

事故による傷害の予防は重要な保健活動の一つですが、現時点では、「気をつけましょう」、「目を離さないで」と言われているだけで、その評価はまったく行われていません。現実には、十分に気をつけていても事故は起こり、目を離さなくても、見ている目の前で起こるのが子どもの事故です。注意喚起だけでは、予防にはつながりません。WHO（世界保健機関）も、「見守り」、「心構え」では子どもの傷害は予防できないと明言しています。

外因による子どもの健康被害を予防するためには、科学的なアプローチが不可欠です。このセミナーでは、科学的に評価できる方法で、事故による傷害を予防するための方法論、また実際に使用できるツールを紹介します。学会の開催に合わせてセミナーを開催いたしますので、ぜひご参加ください。

公益社団法人 日本小児保健協会 会長 岡田 知雄
同 傷害予防教育検討会 委員長 山中 龍宏

日時：平成25年9月26日（木）10：00～12：30（開場9：45）
会場：国立オリンピック記念青少年総合センター <http://nyc.niye.go.jp/>
国際交流棟 第1ミーティングルーム
住所：〒151-0052 東京都渋谷区代々木神園町3-1
TEL：03-3469-2525

受講料：1,000円

定員：30名（先着順・定員に達し次第 締め切り）

申込み方法：別紙申込書をFAX、または電子メールにてお受付いたします。

電子メールの場合は、件名「第1回傷害予防教育セミナー申込み」とし、事務局 jsch-soc@umin.ac.jp までお申込みください（<http://www.jschild.or.jp/> HPに申込用紙フォーマットあり）。

*後日、メール・FAXにて受付通知書をご返信いたします。

*受講料は当日ご持参ください。

プログラム

1. 子どもの傷害の実態と傷害予防の考え方
2. 傷害情報の収集方法について
3. 製品や環境改善へのアプローチ
4. 意識・行動変容へのアプローチ
5. 調査、研究方法の実際
6. 子どもの安全用チェックツールの紹介

公益社団法人 日本小児保健協会 事務局
〒112-0004 東京都文京区後楽1-1-5 第一馬上ビル9階
TEL：03-3868-3093 FAX：03-3868-3092
E-mail：jsch-soc@umin.ac.jp

当日連絡先：080-9029-1452

日本小児保健協会宛

申込日：平成 年 月 日

FAX：03-3868-3092

第1回 傷害予防教育セミナー参加申込書

平成25年9月26日（木）

- フリ ガナ
1) 氏名 _____
- 2) 住所 _____
- 3) 勤務先 _____
- 4) 返信用連絡先
TEL ()-()-() FAX ()-()-()
メールアドレス _____@_____
- 5) 職種（○で囲んでください）
小児科医師・その他医師・歯科医師・保健師・助産師・看護師・管理栄養士・
栄養士・心理士・養護教諭・保育士・教職・研究職・
その他（ ）
- 6) 会員 ・ 非会員（会員番号 _____）
（不明な場合は未記入でもかまいません）

受付通知番号 No. ()

日本小児保健協会 第1回傷害予防教育セミナー

大変申し訳ございませんが、今回はご参加いただけません。

*研修会には本紙をご持参いただき、当日受付にご提出ください。